



「不屈」

No.576 付録  
高知版No.421  
2022.6.15

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
高知県本部

発行責任者  
森岡 幸一  
TEL・FAX  
088-841-0072

### 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

#### 第37回県本部総会

2022年7月23日(土)

平和資料館・草の家  
総会 午後2時~4時

会員の皆様にご案内します。  
感染防止を徹底し実施します。県版7月号  
に議案を提案します。参加出来ない方も  
ご意見をお寄せください。

### 溝渕政子さんを偲ぶ

細木黎子

長年治安維持法同盟の主人のような存在であった溝渕先生が逝去されました。通常誰もが“先生”そうお呼びしていた。

それは40年間高知県内の小学校・養護学校で教師として勤務し、嵐のごとく吹き荒れた戦後の教育界の諸々の右傾化に対して教育労働者として常に闘いの前線に立ち、従って僻地から僻地へと1年ごとに職場、勤務地を替えられたという経歴の方でした。

退職後はボランティア活動として子供たちに算数教室を開くなどして終生を教育に関わり、それ故にいつも尊敬を込めて“先生”と呼ばれていました。

同時に治安維持法同盟高知県本部の役員として高知

県内の犠牲者の遺族を訪ねるなどしてその足跡を本にまとめられたり、また全国的にも女性部の要として活躍されました。

「私は戦後すぐから40年間『教え子を再び戦場に送らない』ことを目標にしてきた」その言葉通りに一貫して教育の現場で戦い、そして生涯を通して「憲法9条を守り平和への願い実現のために」と頑張ってこられました。

しばしば「血圧が舞い上がった」という言葉も聞きました。が、時に怖いほどの叱咤激励は有名でした。後に続く者として先生の足跡を汚さない国賠同盟高知県本部の活躍をこれからも絶やすことなく続けていかねばと思っています。

## 塩沢富美子について

森本琢磨

本年4月末、治安維持法によって殺された女性活動家・伊藤千代子を主人公とした映画「わが青春つきるとも」の上映が、東京でスタートした。高知でも、7月に上映会が予定されている。今こそ多くの方々に見ていただきたい映画だ。

さて、この映画公開に当たり、筆者はある人物の存在を知った。本稿ではその話をしたい。

筆者は、「高知市民劇場」という演劇鑑賞団体に所属している。二ヶ月に一度、東京から招く様々な公演を堪能できる会であり、その本年一月の作品に、角田萌果(つのだ・もか)さんという女優が出演していた。彼女の演技力はなかなかのもので、私の脳裏に強烈な印象を残したのだが、その角田さんも「わが青春つきるとも」

にも出演していることを例会后、知ることとなった。

角田さん演じる人物は、塩沢富美子(しおざわ・ふみこ)という女性で、あの野呂栄太郎の妻であるという。恥ずかしなから、野呂については知っていても、その妻については認知していなかったもので、これを機に、彼女の著者『野呂栄太郎とともに』を読んでみることにした。

1986年に書かれたこの回想録の前半は、半世紀も前の暗黒時代が昨日のこのように記録されている。その中に伊藤千代子との思い出も書かれていたので、少し紹介したい。

富美子が千代子と会ったのは、東京女子大学、そして市ヶ谷刑務所の中である。同大で、二人は先輩と後輩の関係であり(千代子が先輩)、当時から社会科学を熱心に学んでいた千代子は、マルクス主義の研究会も学内に作り、ここ

に富美子を誘った(富美子の大学入学は1927年)。富美子は、その勉強に「魂を吸いとられるように熱中した」という。また、富美子が望まぬ縁談を養母に提示された際も、千代子の「自分がたよれるのは自分のほかにない」といった励ましに背中を押され、拒否することができた。女性の人権がなきに等しい時代、千代子はジェンダーの価値観を持っていったのだ。

しかし、千代子の姿はやがて大学から消えた。1928年に行われた共産党員の一斉検挙「三・一五事件」に巻き込まれたのである。そして、富美子もまた国家権力によって捕縛され、市ヶ谷の刑務所に送られることとなる。富美子はこの時、着物の中に鉛筆の芯を大量に隠し、収監後、それを用いて獄中の同志たちとの意志疎通を図ったという。そして、富美子はここで千代子との再会を果たした。だ

が、直接触れ合うことはできず、富美子の房の窓下から千代子が声をかけてきたと同居には書かれている。千代子は、刑務所内の運動場に出られる時間を生かして、富美子と話す機会を作ったのである。しかし、これが富美子が見た千代子の最後の姿となった。

千代子はその後、野蛮な天皇制権力により24歳の若さで殺された。一方、富美子は1991年まで生き、天寿を全うした。その5年前に書かれたこの本からは、日本帝国主義の誤った歴史を後世に伝えるための「生き残った者としての責任」を感じる。

「わが青春つきるとも」も、それと同様だ。この作品が完成した背景には、「あの暗黒時代を繰り返させない」との決意のもと、戦後を歩んできた人々の「良心」と「覚悟」がある。戦争美化や外国人差別が台頭する昨今だからこそ、それを感じずにはいられない。

## 憲法施行七十五周年 県民のつどい

徳弘喜孝

今年の憲法記念日集会は五月一日午後、高知城ホールをメイン会場に、サテライト会場を四カ所設定して開催しました。インターネット参加者を含めて百五十人の参加でした。

講師は市民連合の牽引者である上智大学教授の中野晃一さんでした。中野さんは十分分にわたり現在の情勢と課題を語りました。講演の要旨を紹介します。

中野さんは先の衆議院選挙を総括しながら、次の参議院選挙で改憲勢力の「勝利」を許せば、二〇二五年迄衆参ともに選挙がなく、「黄金の3年間」と呼ぶ翼賛体制ができてしまう、とその危機を提起しました。立憲野党はマスコミが煽る中、連合と国民民主党の自民党への接近、立憲民主党と野党共闘路線の混迷が続

いており、市民社会においても二〇一五年以来の安保法制反対の運動も退潮している。ロシアによるウクライナ侵攻は国際社会に大きな衝撃を与えた。衆院選では統一できたいくつかの小選挙区で自民党幹部を落選させるなど、野党と市民の運動は明らかに効果を発生している。野党共闘の分断画策を乗り越え、復古的な改憲を許さないために大きな連帯の運動が求められている。

日本国憲法は「権利章典」を中心とした四十の条文と、「国家権力の分立や統制」を定めた約六十の条文で構成され、全体で一〇三条のコンパクトな憲法である。権利章典は先駆的で包括的であり、日本では法律で決めているようなことを憲法に盛り込んでいるため改正を繰り返している。外国の例と同じにはできない。憲法が長い間改正されていないという人がいるが、外科の手

術をするのにかくどこでもよいので手術をするといわれて賛同する人はいないだろう。改憲ありきの議論は危険である。

抑止力が必要という議論があるが、本来抑止とセットで考えられるべき「安心供与」が考えられていない。いざとなれば攻撃されるので攻撃を思いとどまるといえるのはその相手がどれだけ正気であるかという事ともかわる。

参議院選挙では、衆議院選挙と異なる野党共闘のウエイランド力をかけて議席を獲得することが大切となる。日本国憲法が体現する戦後日本の「誓い」を捨てるのか、が問われるだろう。

## 女性部の広場

島崎里美

先日、娘の保育園で卒園式と進学する小学校で入学式がありました。

娘は保育園に4年間通いました。最初の頃は保育園に着くと毎日泣きながら先生に抱っこをしてもらいお別れをしていました。だんだん保育園に慣れてくるとすっかり泣くこともなくなり保育園に着くなり「今日のお迎えは誰？ちち？はは？早くお迎え来てよ！」と言ってさつと保育園の中に入って行くようになり私の方が寂しいな・・・と思つたことでした。この4年間には色々な思い出があります。年中さんの時、急に「保育園に行きたくない！もう保育園を辞めることにしたき。」と宣言をして登園拒否が始まったこともありました。当時は困り果て先生に相談したり大変でした。そして今年1年生にな

り新しい友達も出来毎日張り切って小学校に通っています。これから6年間たくさんの友達と楽しく学校生活を送ってもらいたいと思います。



5月幹事会報告

☆同盟員

260名

溝渕政子さんが亡くなられました。ご冥福をお祈りします。1名入会がありました。

☆署名

個人署名(617筆)

北 185筆

南 155筆

南国 62筆

山田 50筆

その他 165筆

団体署名(8筆)



国会請願は5月11日(水)に行われました。高知県の請願署名数は600筆です。☆第40回全国大会(東京)大会代議員 森岡、藤木2名を送ります。☆県本部総会 議案、役員について6月幹事会で審議します。☆「伊藤千代子」映画上映 上映会打ち合わせ 6月16日13時 ☆極村浩生誕祭 6月1日、歌碑前で生誕祭を行いました。

全国大会議案を読んで

ロシアによるウクライナ軍事侵略が始まって3カ月余り、ニュースにこの事が出ない日は有りません。

議案は100年前と比べ民衆の運動、市民社会の力が軍拡競争でなく市民社会が戦争を止める確かな力と述べています。へ、日本社会はどうかと考えると政権与党、補完政治勢力がこの機会を捉え軍備増強、戦争をする国に向けて突き進んでいる事です。戦前の日本は天皇制・絶対主義のもと侵略戦争を繰り広げました。治安維持法が猛威を振るい、戦争反対、主権在民を主張する人々は国賊として捉えられ命を落とす人も少なくありませんでした。ウクライナ侵略ニュースは当事国ロシアからも入ります。ロシアでは軍事侵略に反対する市民が次々権力によって拘束されました。国外に逃げ出した市民も報道されています。

今、日本の現状を見てみると特定秘密保護法、共謀罪、戦争法、土地規制法など国家権力による縛りが戦前の治安維持法体制下に匹敵する程となつていきます。

治安維持法国賠同盟は1968年200名の犠牲者により創立された団体です。そのスロガンに再び戦争と暗黒政治をゆるさないためにと謳っています。第40回大会はこれまでの大会以上に平和か戦争かが問われる大会となります。県下で「伊藤千代子」上映運動が広がっていますが今の日本を戦前に戻してはなりません。会員を増やし、憲法改正を阻止しましょう。

森岡

7月幹事会  
7月13日(水)  
14時  
草の家